

# 応用編

## 4 「貯める・増やす」～ 資産形成

## 4. 「貯める・増やす」 ～資産形成

### 4-1. どうして資産形成が必要なのか？

- まずは家計管理をしっかり行い、貯蓄しましょう
- ただ、超低金利のもとでは、預貯金ではお金は増えません
- 物価上昇（インフレ）すると、貯蓄の価値が目減りする可能性があります
- ライフプランの選択肢が多様化し、一人一人が自由に生きる時代です



**目的別に金融商品を活用しながら、皆さん一人一人が自分に合った資産形成を行い、将来に向けて準備していきましょう。**  
**語学やPCスキルを学ぶ、資格を取得するなど自己投資を行い、稼ぐ力を高めることも大切です。**

# 4. 「貯める・増やす」 ～資産形成

## 4-2. 利子と金利

### (1) 利子（利息）

借りたり貸したりしたお金の、一定の割合で支払われる対価（金額）

### (2) 金利（利率）

貸し付けたり借りたりした資金に対する対価の利率（%）

例) 金利0.02%で100万円を銀行に預ける

100万円

1年後

100万200円

200円が  
利子

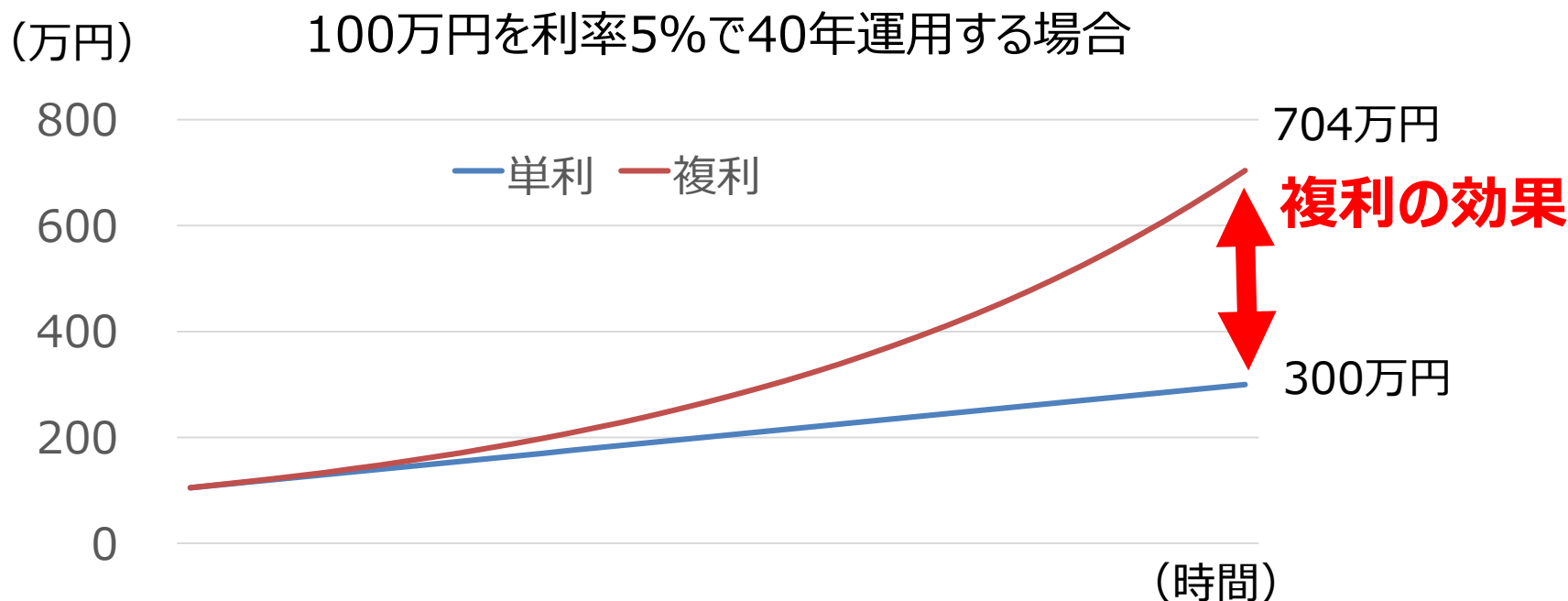


お金を預ける時は、金利が高い・低いどちらが良いですか？  
お金を借りる時は、金利が高い・低いどちらが良いですか？

## 4. 「貯める・増やす」 ～資産形成

### 4-3. 単利と複利

- 最初の元本のみに利子がつくことを「**単利**」と呼びます
- 元本のみならず、利子も運用すれば、その利子にも利子がつくことを「**複利**」と言います



複利の効果は、金利が高いほど、期間が長いほど、大きくなります。

# 4. 「貯める・増やす」 ～資産形成

## 4-4. 金利を実感してみよう（72の法則！）

### 72の法則 「元本が2倍になる金利と年数の関係」

$$72 \div \text{金利} \div \text{お金}が2倍になる期間 \text{ (年)}$$

(%)

(例) 10,000円（元本）が20,000円になるのに必要な年数

世代イメージ

祖父母世代

親世代

今

預金金利：8%

預金金利：6%

預金金利：0.02%

10,000円(元本)が  
20,000円になるのに  
必要な年数

約9.0年

約12年

約3,600年

$$72 \div 8$$

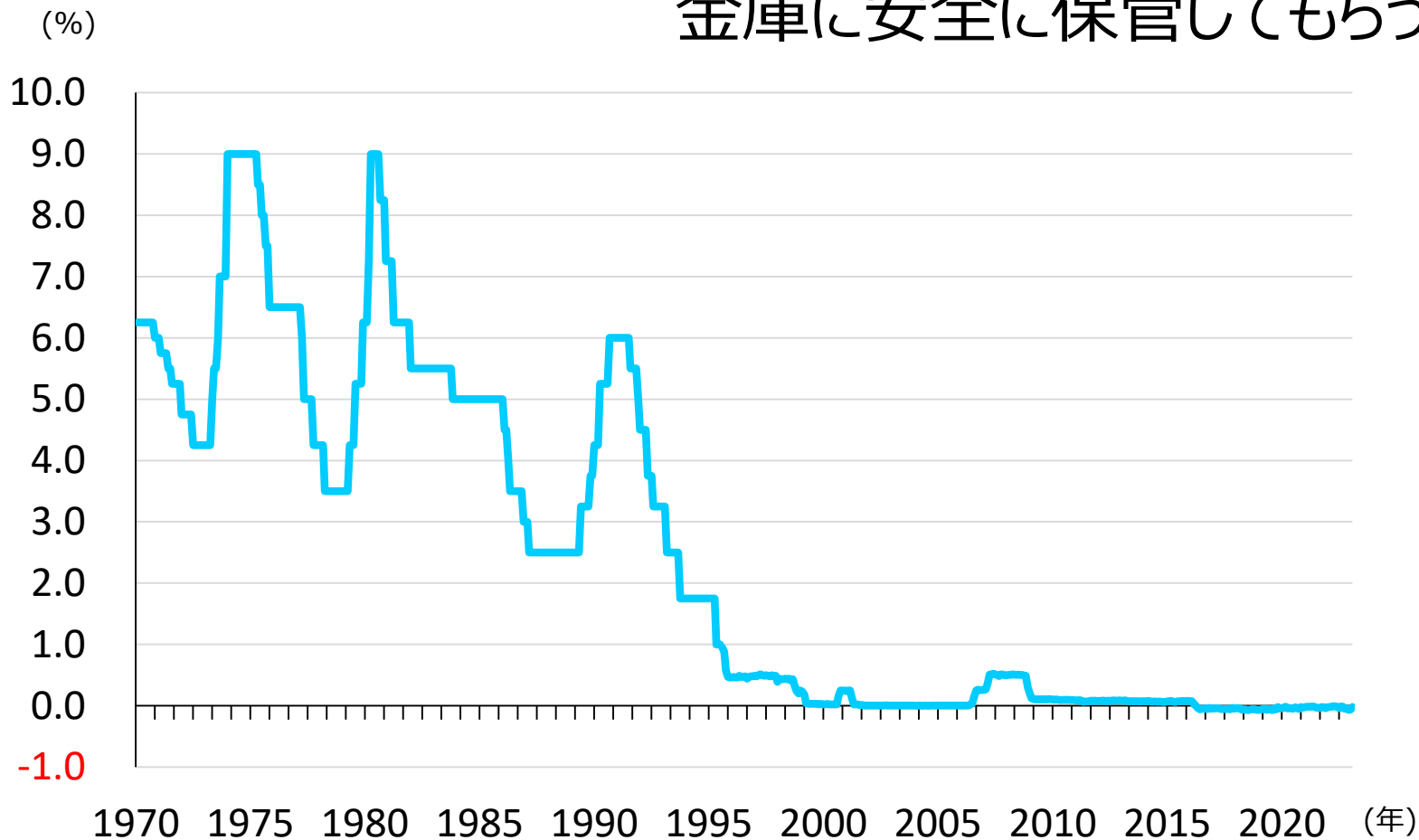
$$72 \div 6$$

$$72 \div 0.02$$



## 4-5. 金利の推移

銀行に預ける = 現在の金利は、ほぼゼロ  
金庫に安全に保管してもらう



(出所) 日本銀行

(注) 1995年6月までは公定歩合（基準貸付利率）、それ以降は無担保コールO/N物レートの月中平均金利

## 4. 「貯める・増やす」 ～資産形成

### 4-6. 金融商品の3つの基準

どのくらい利益  
が期待できるか

収益性

3つの基準すべてを完全  
に満たす金融商品はない

安全性

流動性

元本が減らないかどうか

お金を引き出しやすいかどうか

**元本**とは、金融商品の購入・投資に  
充てた資金の額。いわゆる元手です。

### 4-7. 主な金融商品の特徴①

#### 預金 貯金

- ・ 銀行等にお金を預けること
- ・ 給与の受け取り、公共料金の引き落としなどでも利用
- ・ お金の引き出しが簡単（銀行やコンビニのATMなど）
- ・ 元本保証あり（各金融機関で元本1,000万円までと

その利息)

**元本保証**とは、金融商品の購入・投資に充てた資金が減ることはないということ。



⇒ 預金・貯金は、一般的に、**収益性は低い（△）**が、**安全性・流動性は最も高い（◎）**。



## 4-8. 主な金融商品の特徴②

### 債券

- ・ 国や会社にお金を貸すこと
- ・ 定期的に利子が支払われ、満期がくれば額面金額を受け取ることができる
- ・ 国が発行するものを「国債」  
会社が発行するものを「社債」という
- ・ 発行した会社等が倒産すると、返済されない可能性がある

**(元本は保証されていない)**

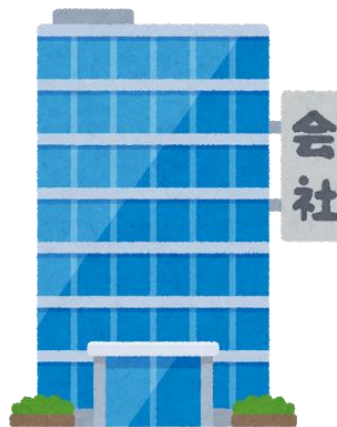


⇒ 債券の**安全性は、国債は高く（◎）、社債は発行企業次第**。  
一般的に、**流動性は低く（△）、収益性は、預金より高く、株式より低い（○）**。

### 4-9. 主な金融商品の特徴②

#### 株式

- ・ 購入者（株主）は会社の一部を所有することになり、会社はお金を返す必要はない
- ・ 会社が上げた利益に応じて配当などを受け取ることができる
- ・ 会社の業績や、国内・海外の景気などによって、株式の価値（株価）も変動する  
**（元本は保証されていない）**

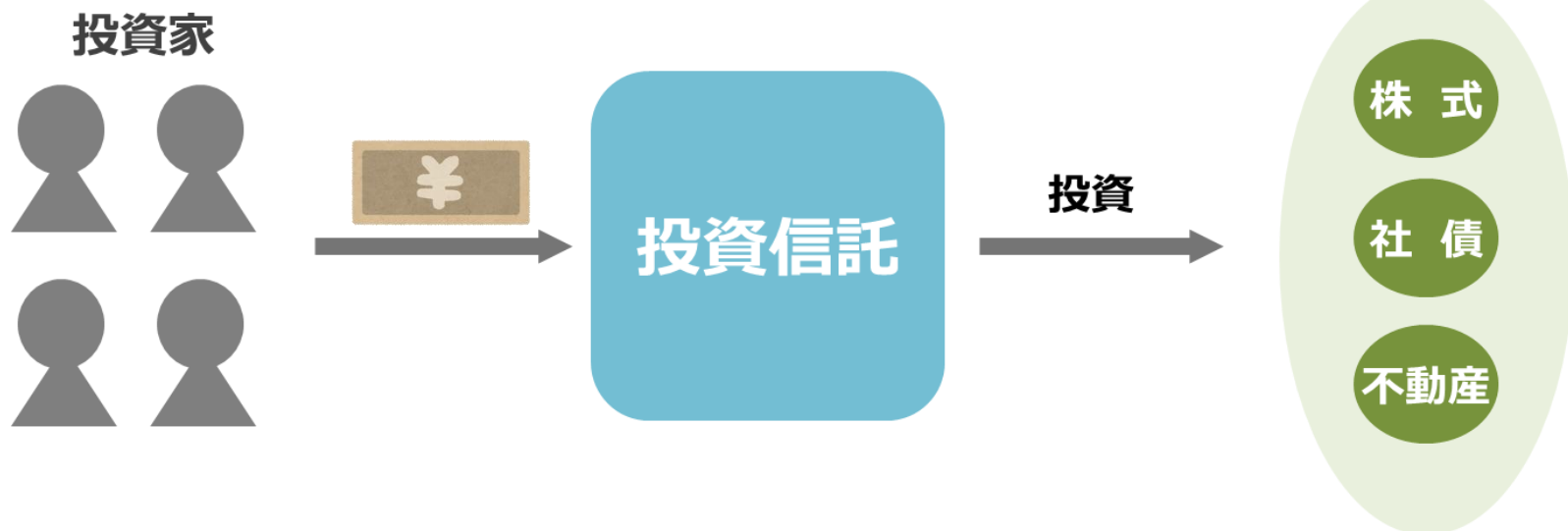


⇒ 株式は、**安全性は低い（△）**が、**高い収益性（◎）**が期待できる。  
**流動性は高い（○）**。

## 4-10. 主な金融商品の特徴③

### 投資 信託

- ・ 多くの人から集めたお金を、1つにまとめて大きな資金にし、**株式**などに**投資する仕組み**
- ・ ファンドともいう
- ・ 株価の変動などによって、価格が日々変動する  
**(元本は保証されていない)**
- ・ 少ない金額から購入できたり、分散投資もしやすい



⇒ 投資信託の**収益性、安全性は、投資対象次第**。**流動性は高い (○)**。

## 4. 「貯める・増やす」 ～資産形成

### 4-11. 主な金融商品の特徴まとめ

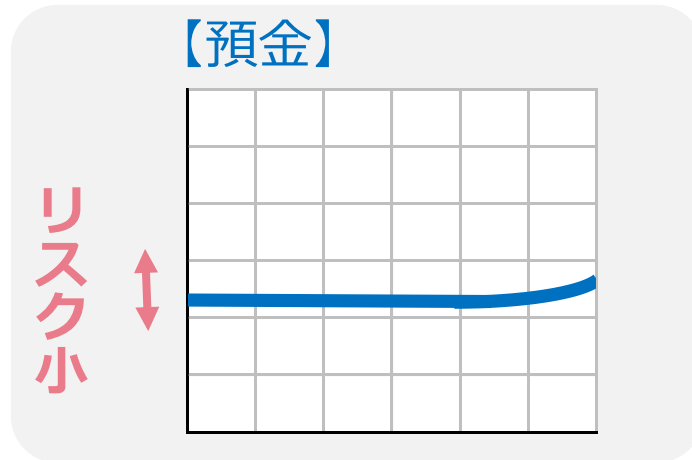
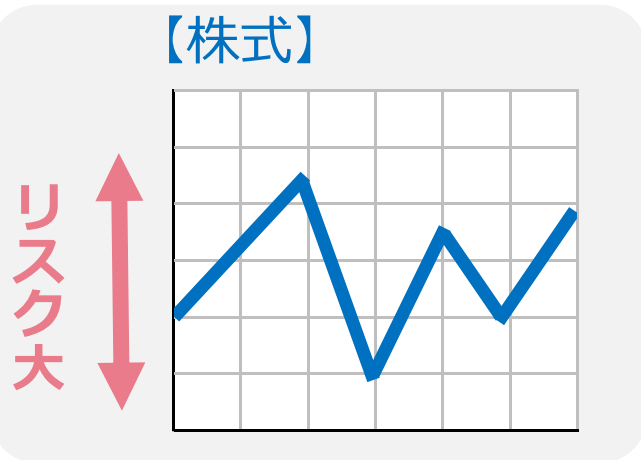
	安全性	収益性	流動性
預金・貯金	◎	△	◎
株式	△	◎	○
債券	○	○	△
投資信託	△～○	○～◎	○

⇒ 3つとも◎の金融商品はありません。目的に応じて使い分けましょう。

### 4-12. リスクとは？

- お金を運用した結果、得られる利益や損失のことを「リターン」といいます。
- このようなリターンの不確実性の大きさ、振れ幅の大きさを「リスク」といいます。

リターンの  
振れ幅

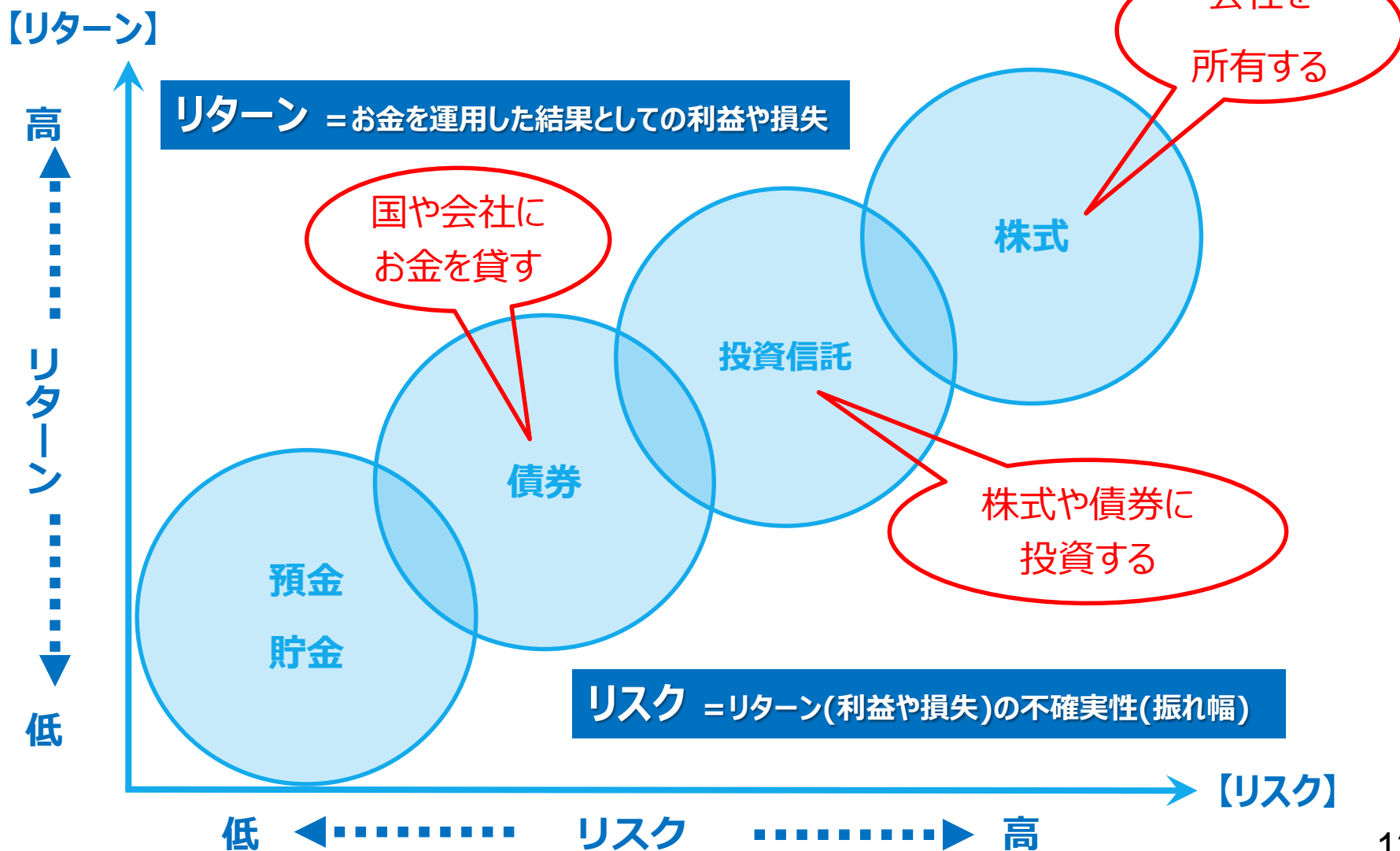


金融商品は自分の意思で選ぶため、  
利益・損失は自己責任です。（自己責任原則）

# 4. 「貯める・増やす」 ～資産形成

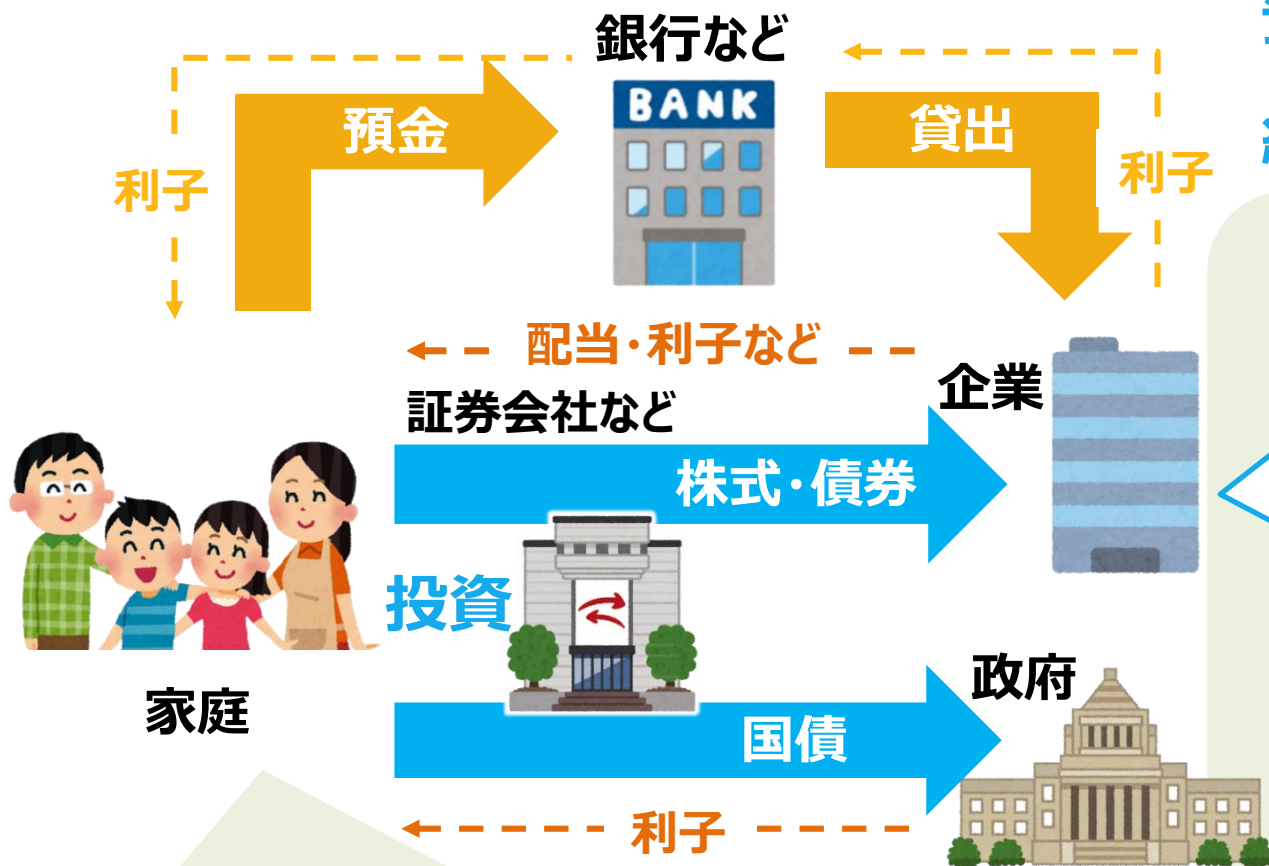
## 4-13. リスク・リターンの関係

(注) あくまでもイメージです。厳密な表現ではありませんので、ご注意ください。



# 4. 「貯める・増やす」 ～資産形成

## 4-14. 預金と投資



預金や投資したお金は  
経済活動に使われる

設備投資  
商品・サービスの提供  
株主への配当  
従業員への給与

公共サービス

私たちの生活が  
より豊かで便利に

# 4. 「貯める・増やす」 ～資産形成

## 4-15. 投資を通じて社会課題の解決に貢献

### SDGsとは

「持続可能な世界を実現する」ことを目指して、国連サミットで採択された国際目標。貧困や飢餓、保健、教育、ジェンダー、環境、生産、雇用など、幅広く17のゴール・169のターゲットから構成される。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



私たち

商品の購入



投資



SDGsに取り組む企業

⇒ 消費（商品の購入）や投資（債券・株式の購入）等による資金提供を通じて、社会をより良くすることに貢献できる

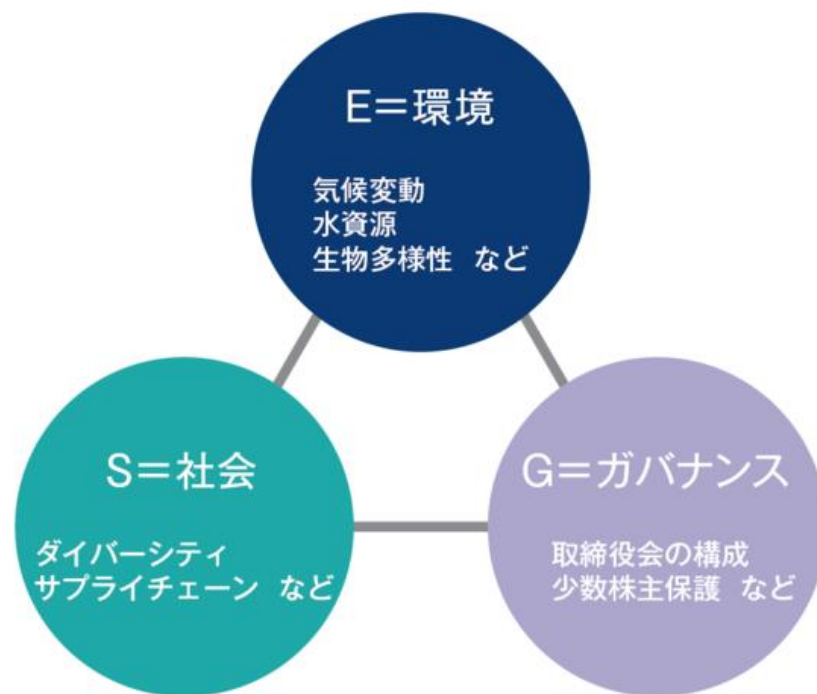


## 4-16. ESG投資とは

ESGは、  
**環境 (Environment)**  
**社会 (Social)**  
**ガバナンス (Governance)**  
の英語の頭文字を合わせた言葉です。

投資するために企業の価値を測る材料として、これまではキャッシュフローや利益率などの定量的な財務情報が主に使われてきました。それに加え、非財務情報であるESG要素を考慮する投資を「**ESG投資**」といいます。

ESG に関する要素の例



(出所) 年金積立積立金管理運用独立法人

### 4-17. リスクを軽減するためにできること

(1) 低金利のもとでは、預金・貯金だけでは資産は増えません。

---

確かに、株式や投資信託などの投資運用商品は元本割れの可能性がありますが、ちょっとした工夫で、元本割れの可能性を軽減することが期待できます。

---

(3) キーワードは、「**長期**」「**積立**」「**分散**」投資。そして、「**非課税制度**」です。

---

(4) 「**長期**」「**積立**」「**分散**」がリスクと向き合うにあたって、いかに重要かを見ていきます。

---

# 4. 「貯める・増やす」 ～資産形成

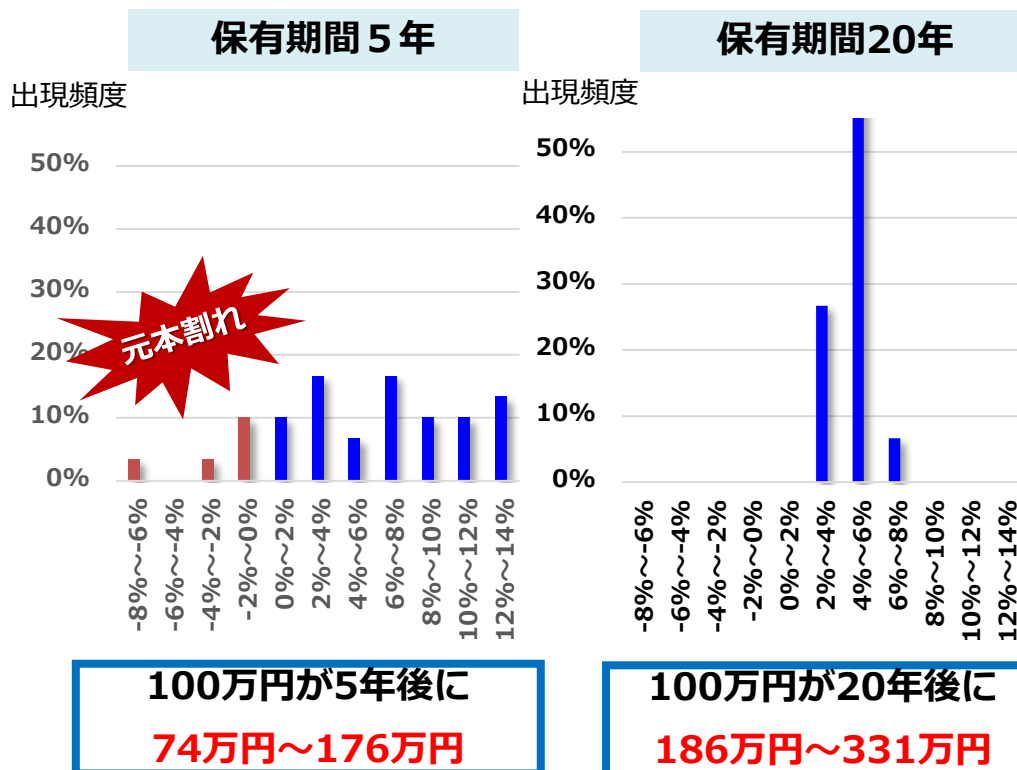
## 4-18. 長期投資

(1) 投資を長期間続けると、分散投資（後述）や複利の効果等とあいまって、結果的に元本割れする可能性の低減が期待できます。

(2) ただし、途中で売ったり積立投資をやめてしまうと、こうした効果は弱くなります。

(3) 例えば、投資信託の価格（基準価額）は上がったり下がったりしますが、こうした動きに過度に一喜一憂することなく、後述する**積立・分散投資を長期間にわたって続ける**方が結果的にパフォーマンスが上がるのが過去の実績です。

### 長期投資の運用成果\*

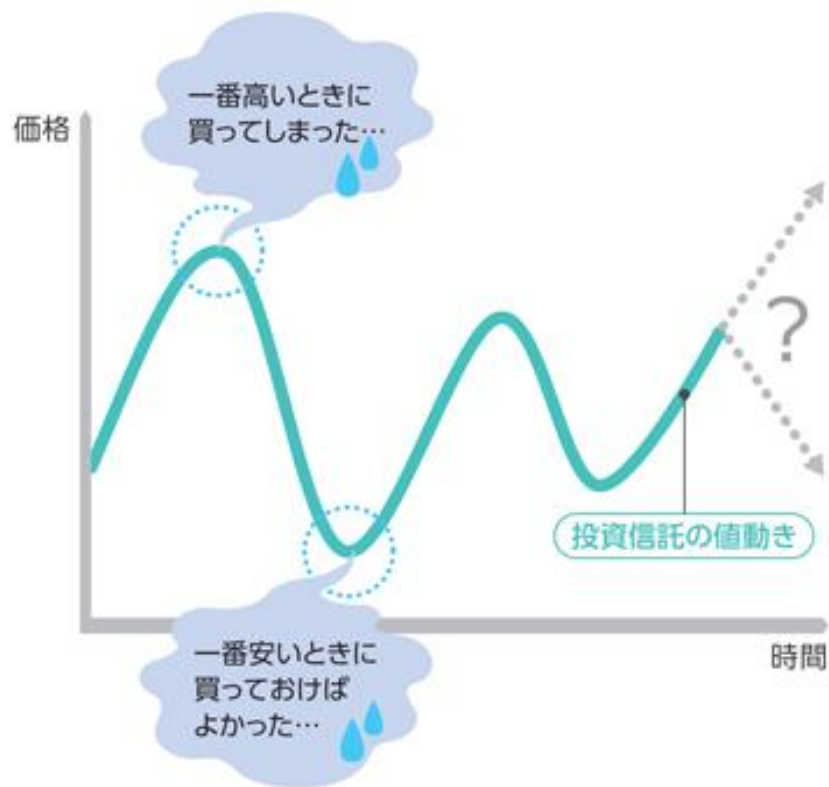


\* 1989年以降、毎月同じ金額ずつ国内外の株式と債券に積立投資を行い、

5年間と20年間それぞれ保有した場合についての年間収益率と運用結果を計算したもの(金融庁作成)

## 4-19. 積立投資①

### 投資のイメージ



投資のタイミングをとらえるのは難しい...

### 積立投資

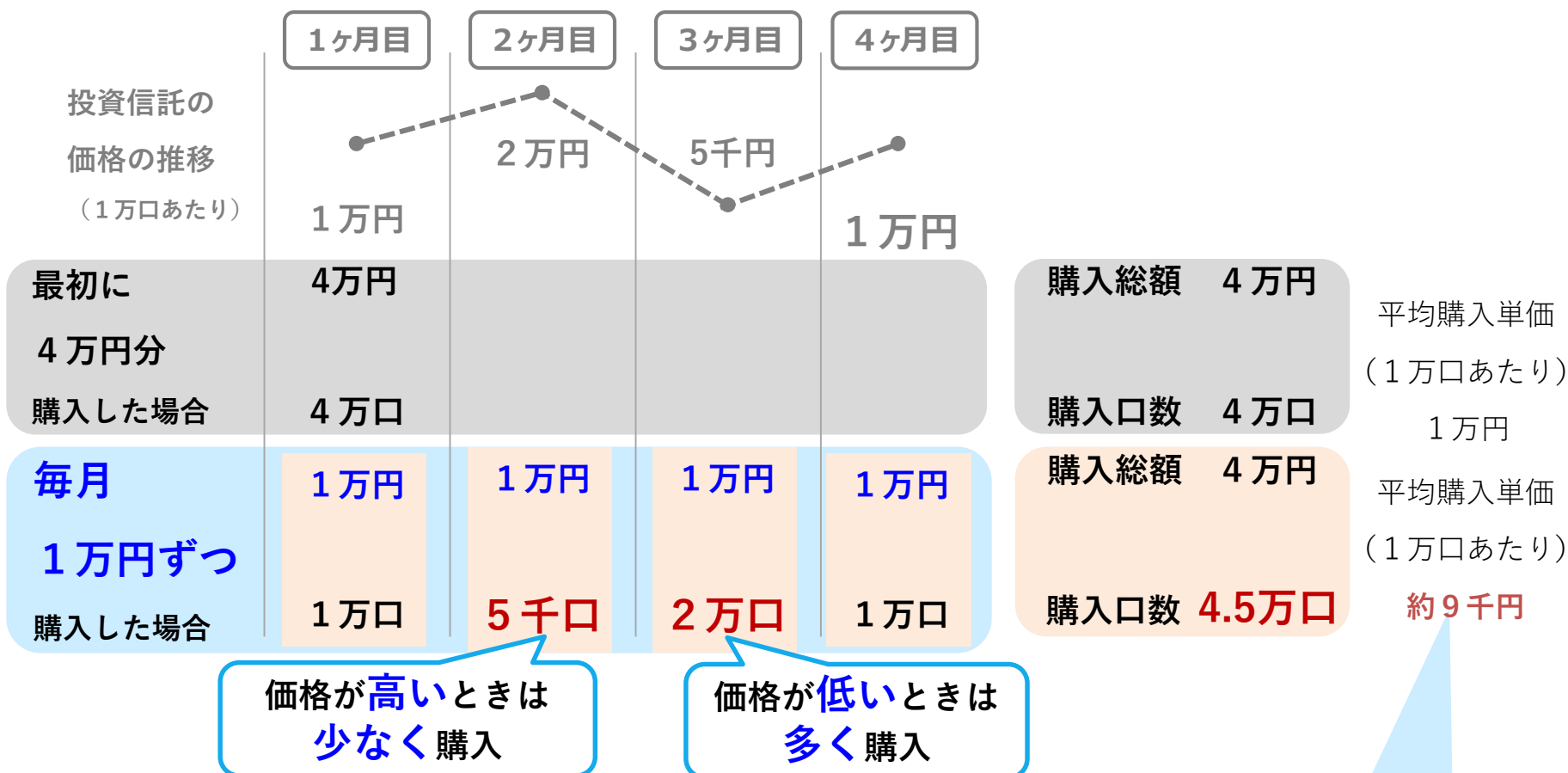
「あらかじめ決まった金額」を  
「続けて」投資すること

→安いときに買わなかったり、高いときにだけ買ってしまうことを防ぐ

# 4. 「貯める・増やす」 ～資産形成

## 4-20. 積立投資②

例えば、合計4万円の投資金額では



この例では、毎月1万円ずつ購入していた場合の方が、  
平均購入単価を安くすることができた

## 4. 「貯める・増やす」 ～資産形成

### 4-21. 分散投資

#### 資産 の分散

1つの資産だけに投資するより、**値動きの異なる複数の資産**に分散投資を行うことで、価格の変動が小さくなる

→**リスクを軽減**

#### 地域 の分散

投資先の地域を分散することで、より安定的に**世界経済の成長の果実（利益）**を得ることが期待できる

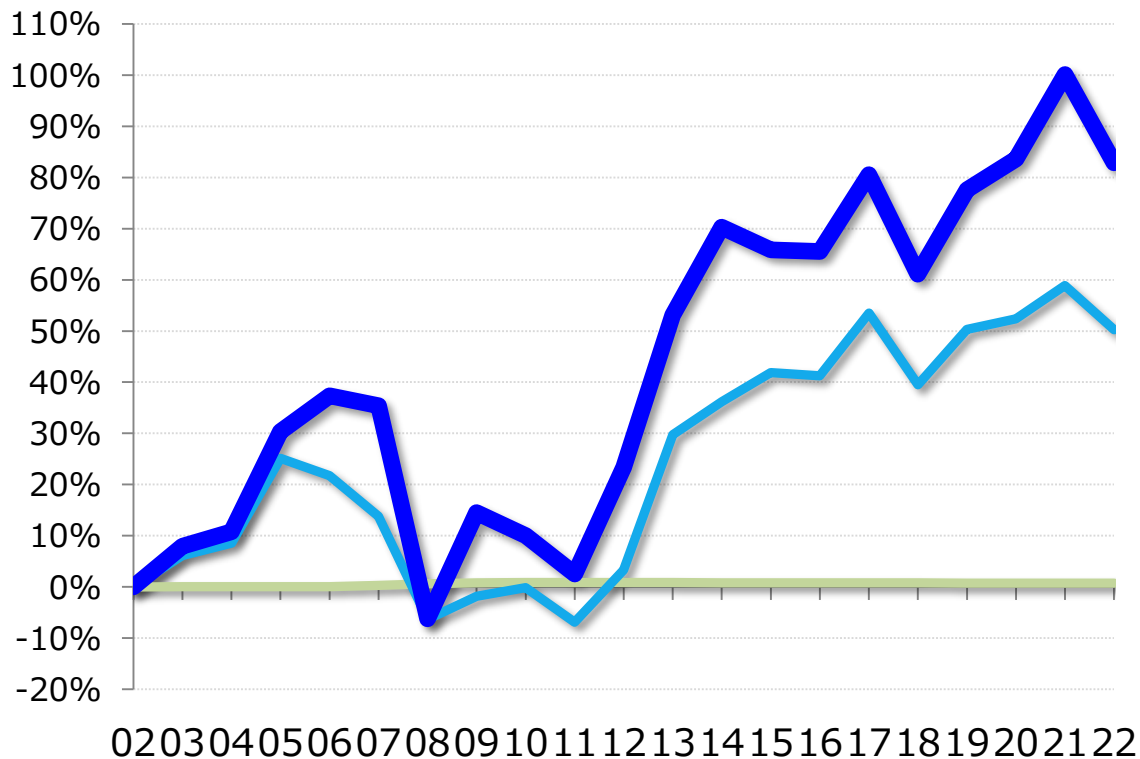
#### 分散投資の効果（イメージ）



# 4. 「貯める・増やす」 ～資産形成

## 4-22. 長期・積立・分散投資の効果

### 長期・積立・分散投資の効果（実績）



**C : 国内・先進国・新興国の株・債券に1/6ずつ投資**  
82.84% [年平均3.06%]

**B : 国内の株・債券に半分ずつ投資**  
50.28% [年平均 2.06%]

**A : 定期預金**  
0.71% [年平均 0.04%]

(注) 各計数は、毎年同額を投資した場合の各年末時点での累積リターン。株式は、各国の代表的な株価指数を基に、市場規模等に応じ各国のウェイトをかけたもの。債券は、各国の国債を基に、市場規模等に応じ各国のウェイトをかけたもの。

(資料) Bloombergより、金融庁作成

# 4.「貯める・増やす」～資産形成

## 4-23. NISAとiDeCo～資産形成の税優遇制度～

	NISA (少額投資非課税制度)		iDeCo(イデコ) (個人型確定拠出年金)
税の優遇	運用益が非課税		運用益が非課税 毎年の所得税や住民税が少なくなる 受け取り時に支払う税金が少なくなる
対象者	18歳以上		原則20歳以上65歳未満 (公的年金被保険者)
拠出限度額 (年間)	つみたて投資枠	成長投資枠	年間14.4～81.6万円 (注1)
	年間 120万円	年間 240万円	
非課税保有限度額 (総枠)	1,800万円 (うち成長投資枠は1,200万円) 購入商品を売却した場合、購入時の買値分だけ翌年以降、枠の再利用が可能		—
投資可能商品	長期の積立・分散投資 に適した一定の投資信託 (金融庁の基準を満たしたものに限定)	上場株式・投資信託等 (一部の商品を除く) (注2)	投資信託 保険商品 定期預金等 金融機関が提示する商品の中から選択
投資方法	定期的に定額を積み立て	自由	定期的に定額を積み立て
払出し制限	引き出し可能		原則60歳まで引き出し不可

(注1) ・国民年金のみに加入の自営業者等：68,000円/月 ・公務員：12,000円/月 ・専業主婦(夫)等：23,000円/月  
 ・会社員：企業年金無し23,000円/月、企業年金有り最大20,000円/月 (企業年金加入状況により異なるので、詳細は勤務先にご確認ください)

(注2) ①整理・監理銘柄、②信託期間20年未満、毎月分配型の投資信託及びデリバティブ取引を用いた一定の投資信託等を除外。



## 4. 「貯める・増やす」 ～資産形成

### (体験) 資産形成シミュレーターを使ってみよう！ (1)

条件入力

資産シミュレーター 積立シミュレーター

投資金額 10万円 1,000万円 100万円

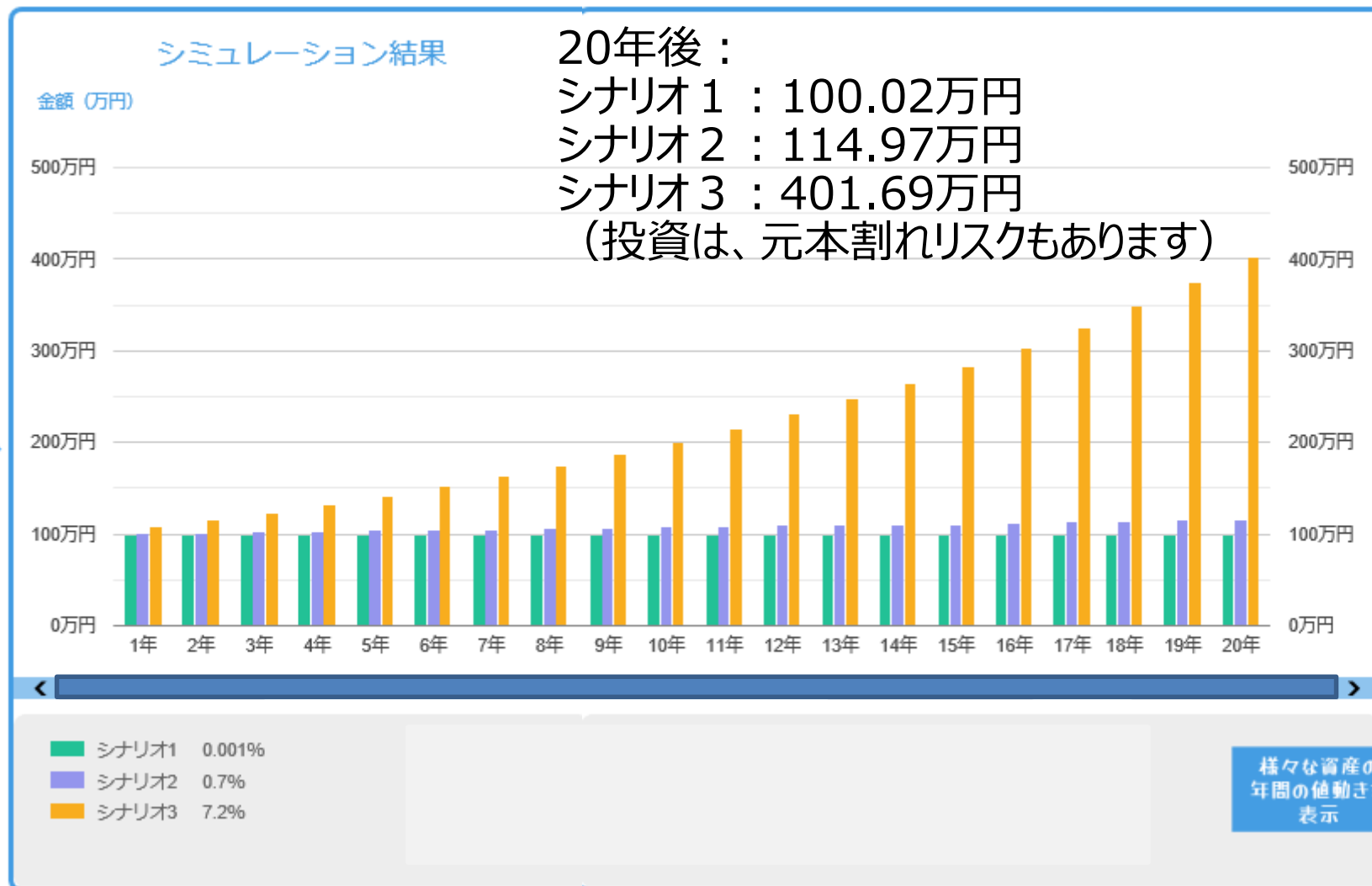
	シナリオ1	シナリオ2	シナリオ3
利率 (年利)	0.001% 15% 0.001% シナリオ2,3も同じ数値を使う	0.001% 15% 0.7% シナリオ2,3も同じ数値を使う	0.001% 15% 7.2% シナリオ2,3も同じ数値を使う
設定期間	1年 50年 20年 シナリオ2,3も同じ数値を使う	1年 50年 20年 シナリオ2,3も同じ数値を使う	1年 50年 20年 シナリオ2,3も同じ数値を使う

- 資産：積立：資産シミュレーターを選択
- 投資金額：100万円になっていますが、変更できます
- 利率：シナリオ1～3まで1年でどのくらい増えるか利率を入れます。シナリオ1は預金金利、シナリオ2は国内債券の平均利回り、シナリオ3は海外株式の平均利回りです
- 設定期間：長期投資の目標である20年にセットしています



## 4.「貯める・増やす」～資産形成

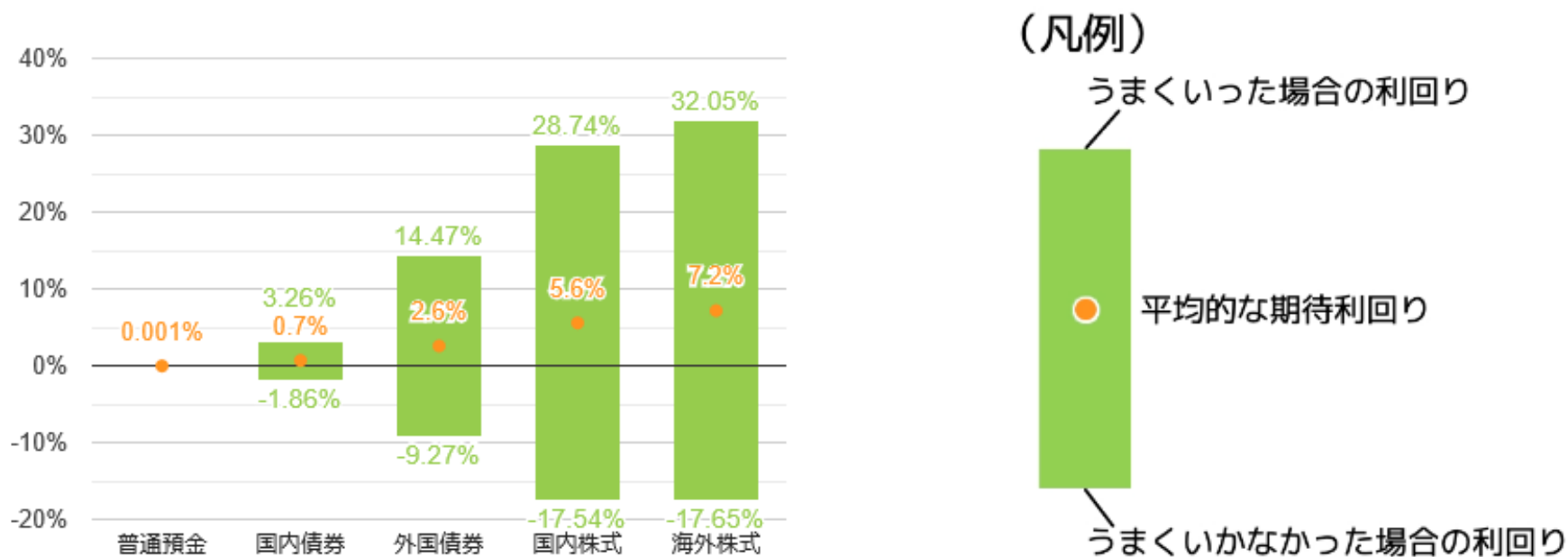
### (体験) 資産形成シミュレーターを使ってみよう！ (2)



## 4. 「貯める・増やす」 ～資産形成

### (体験) 資産形成シミュレーターを使ってみよう！ (3)

様々な資産の年間の値動きの想定



出所：年金積立金管理運用独立行政法人（GPIF）の基本ポートフォリオの考え方を基に金融庁が算定

## 4. 「貯める・増やす」 ～資産形成

### まとめ①（4章のポイント）

- (1) **目的別に金融商品を活用**しながら、自分に合った資産形成を行い、将来に向けて準備しましょう。

---

- (2) お金を預けると利子をもらえ、お金を借りると利子を払わなくてははいけません。**利子は金額、利率は%**で示されます。

---

- (3) 元本のみにも利子がつくことを**「単利」**、利子も運用すれば利子にも利子がつくことを**「複利」**といいます。

---

- (4) 金融商品の3つの基準**「収益性」「安全性」「流動性」**を全て満たす商品はありません。目的に応じて使い分けましょう。

---

- (5) **「預貯金」「債券」「株式」「投資信託」**の特徴を知りましょう。

---

- (6) 投資とは自分の資金を経済活動に提供することで、利益の一部を受け取ることです。経済活動により、**私たちの生活がより豊かで便利**になります。

### まとめ②（4章のポイント）

- (7) お金を運用した結果、得られる利益や損失のことを「**リターン**」といいます。このリターンの不確実性の大きさを「**リスク**」といいます。
- 
- (8) 金融商品の**リスク・リターンの関係**を理解しましょう。金融商品は自分の意思で選ぶため、**利益・損失は自己責任**です。
- 
- (9) 投資を通じて、社会課題の解決（**SDGs**）に貢献することも考えられます。**ESG投資**とも呼ばれます。
- 
- (10) 投資運用商品は**元本割れ**の可能性があります。工夫することで、元本割れリスクの軽減が期待できます。「**長期**」「**積立**」「**分散**」投資、「**非課税制度**」がキーワードです。
- 
- (11) 代表的な「非課税制度」として、「**NISA**」と「**iDeCo（個人型確定拠出年金）**」があります。
- 
- (12) 2024年から「**新しいNISA**」が始まります。
-